

# あるかぼーと・唐戸エリアマスタープランデザイン会議

## 第12回 議事概要

日時	2024年8月29日(木) 14:00~17:30
場所	市役所西棟5階大会議室
参加者(委員)	HBP・KAM 共同事業体：吉田、木村隼、木村大、清原、安本、井上、有賀 専門家：熊谷、榎本、大橋、長町 地域事業者：郷田、阿部、原田、立川 事務局：北島副市長(事務局長) エリアビジョン推進室 内田、田中、平山、村上

### 1. 令和7年秋に向けた各項目の検討体制について

木村委員より資料説明

(現状の整理の全体共有のため、特段議論は無し)

### 2. 今年度の社会実験の概要について

各担当分野について、木村大委員はじめ関係者より資料に基づき説明の上、議論

- 今回のような台風が重なり、検証期間が短くなった場合に延長など考えた方が良いか。  
→実証期間は十分に取られており、フィナーレのイベントのことなどを考えても、基本的には延長を想定する必要はないと思われる。
- アンケート数はどのくらいを想定する必要があるか。  
→もちろん多くあることに越したことは無いが、3桁のN数があれば有意な結果と言えると思われる。アンケートの収集が悪ければ人の配置や、例えばボードに貼ってもらうなど情報の集め方を工夫するなどすると良いのではないか。あくまでも社会実験であり、最終的な出来上がりのイメージからすると小さい面もあるため、それが伝わらないとアンケートの評価が上手くできない懸念もある。
- 夜間のファニチャー管理など防犯面についてはどう検証するか。  
→ライトアップによってカバーできるのではないかと。それで足りるか結果を見ることが検証になる。
- カモンワークとしても今回の実証実験の広報をしっかりしていきたいと思っている。予測される課題は日陰がない場所なので、どこまで利用があるのか、市民と観光客のバランスなども確認できたらと思っている。今はインバウンドのマナーの問題が深刻であるが、そうした点も確認していきたい。
- 海響館としても楽しみ。子どもたちが外で遊ぶ姿が見られると良い。貢献していきたい。
- 地先事業者も含めて負担もある中で協力しながら実現したいと思っているが、全体的な方針として、実証のみ、でなく、常設に向けた実証である、ということをしっかり確認したい。また、課題が生じたら、会期中でもどンドン投げかけて欲しい。  
→市としてもその考え。関係課も含めたコミュニケーションが大事。  
今年やったものをさらにアップデートして来年度も実施して、恒久的なものにしていくプロセスだと思うので、みんなでしっかり改善点含めて議論を重ねられれば良い。

### 3. R7年度に実施するモバイルユニットを活用した社会実験について

熊谷委員より資料・模型に基づき説明の上、議論

- 管理者の立場としては、岸壁での長期間の占有や事業などは基本 NG であり、目的外の使用に当たっては国の許可が必要になる。また、クルーズ船寄港時の保安対策との兼ね合い等の課題もあることも課題となるので、この辺りを詰めていきたい。
- 市民としてもワクワクするプランであり、課題を超えていけるように検討を進めていきたい。
- プレイパークなど既にも実施し、好評を得ているものとも親和性が高い内容であり、ぜひ実現に向けて議論したい。
- 実現できれば他の港湾には絶対になく名物になるポテンシャルがある。公民が連携しないと実現できない内容であり、このチームでこそ是非実現していきたいところ。
- 緑地や A 地区とも連想しながら実現・拡張を考えていけると良い。

### 4. 回遊性向上に向けた実証調査の概要について

港湾局より資料に基づき説明の上、議論

- 何を検証する調査か、調査目的の設定が重要である。現状の開発が進んでいない状況で移動のニーズを検証してもニーズがない、という結果になることは明白。
- あくまでも実現に向けた一つのステップという位置づけだと思ふ。今後、開発が進んだり、駐車場マネジメントが全体の視点で行われる中で、楽しいツールになるという期待感はあるが、今、検証すべきは安全性や既に存在して移動ニーズが高い箇所きちんと行くことができるのかどうか、もしルートにできないのであればどういった課題をクリアしないと実現できないか、を明確にしていくこと。
- グリスロとパーソナルモビリティの接続・乗換等も含めて見ていくべき。

以上